

2021/9/5-1

(オマケの英語教室 catfish 1) 書庫版



なりすましの事を英語では catfish といいます。

正式には、ジャストな英語として spoofing(動名詞形)等を使うらしいのですが覚え易いので catfish だけ覚えています。

なりすましと言えば我が国では「fishing」詐欺が有名です。

自分も何回か遭った事があります。

特にこの時節柄、直近1年間で13万円やられた痛手は相当なものでした。

手口としてはアマゾンや楽天市場など有名通販サイトになりすまして誘導し顧客情報を盗み取るというもので見た目はまるで本物そっくり。見分けるのが大変難しいのです。

此処で上記の文章を見返すと fishing だの catfish だの「魚」又は「釣り」の用語が多く出ていることに気づきます。

因みにフィッシング詐欺の「フィッシング」に当たるスペルは正式には phishing なのだそうです、これは sophisticated (洗練された) の phi と fishing の合成語、なのだそうです。

ですが元々のスペルは矢張り fishing (釣り又は釣り上げる事) であるのに変わりはありません。

一方 Catfish というのはナマズの事で、何故ナマズ事を catfish と名付けたのかというとナマズの髭が猫の髭の様に長かったかららしいです。

fishing は「カモ」を騙して釣り上げると言う事から命名されたらしい事は想像に難くないのですが、次の catfish(ナマズ)が何でなりすましを表す事になったのかは疑問でした。

敢えて申せば、なりすましを紛らわしきだとすれば命名に猫の髭との共通点等「紛らわしい理由」を持ってきたからかもしれません。

ですが、その頃 catfish がナマズを意味する単語である事を自分は知りませんでした。

なのに、自分がなりすましの英訳として catfish を真っ先に覚えたのは何故か？

それは子供の頃よく見たアメリカのTVアニメ「トムとジェリー」からの連想が働いたからです。

主題歌は

「トムとジェリー、仲良く喧嘩しな。トムトム、ニャーゴ、ジェリージェリージェリー、チュウ。ネズミが猫に噛みついた、「あべこべだ」猫叩き」  
というものだったと思います。

思い出した折、注目したのが「あべこべ」という歌詞。

というのも、猫がネズミを捕るためにネズミになりすますのであったなら修飾、被修飾の関係は「魚になりすました猫」の意味で語順が fish-cat になるのが妥当だと思っていたのですが実際には catfish と反転していたのに不思議を覚えて、あれこれ考えている内に catfish を「なりすましを表す単語」として自然に覚えてしまったのです。

その時の語順逆転の納得理由としては「その方が言い易いからだろう」と言う事と「歌詞にあべこべという言葉が出てきたから」という極めていい加減なものを根拠に致しました。

こうして見ると英単語を覚えるには何も考えず直ぐに頭に叩き込むより遠回りなるかもしれませんが

「自分史の中でイメージや連想の拡がり易いものを切り口にしたり、それを元に種々類推したりするのも源流探索隊みたいで面白そうだし頭にも入り易そうだ」

そんな気がしております。

追記)

何故なりすましの英単語に魚、釣り関係が多いのか？

それだけ未だ解りません。

(続く)